五才児の記録 ⑥

磯部景子
堀合文子
津守真

六月二十九日　月曜日

飛行機時計、かさのふりこの時計をつくる。めがねをつくる。

飛行機時計

Bは登園するとすぐ先生のところに行く。

B「時計のつづきやりたいな」

先生「あら、よくおぼえていたわね、Bちゃんのは飛行機だったわね」

Bはすぐ時計つくりにとりかかる。

Bは翼をつけおわる。

B「先生、うしろのはねにする紙をちょうだい」

先生はBに厚紙をあたえる。

Bは尾翼の形をかいてきりはじめるが、紙が厚くてきれないので先生のところに持ってくる。先生はBがかいた尾翼をみて、

先生「あら、こういうのね」といいながら、かみそりで切りぬく。

リレー、食堂ごっこ、デパート

女児がリレーをはじめる。Tたちが食堂ごっこをはじめる。先生はRに「つり輪を高くして」と呼ばれてつり輪を高くしに行く。T、M、I、Hがそれぞれの画帳にデパートをかいている。「地下には何がある」などとお互いにはなしながらかいている。

めがね

だいぶ前にYがモールでめがねをつくった。Yがそのめがねをかけているのをみて、

先生「時計屋さんには時計だけじゃなくてめがねもあるわね。めがねもつくりましょうか」とYに話しかける。

かさの時計

Ⓝと Ⓨが時計をつくっている。小さなかさをかいてきりぬいて、ひもを結びつけてふりこにする。

先生「あら、きれいね。ふりこだけじゃなくて、今度時計の上にかさをさしてもいいわね」といって、きいろいやわらかい紙をだしてきて、かさをつくって、時計の上につけてみる。

六月三十日　水曜日

森の精

遊戯室を使用できる日時は、クラスごとにあらかじめきまっている。しかし使用できる日でも子どもの方で何か活動がもりあがっているような時は、子どもの状況に応じて、遊戯室を使用しない場合もある。

先生は今日はできるだけ遊戯室で音楽リズムをしたいと思っている。先生は子どもたちのあそびをみていて、その機会をまつ。

子どもたちがリレーを終った時、先生は当番のAに「お遊戯しましょう」とさそう。子どもたちはさあっと集まってみんなそろって遊戯室に行く。

先生「あのね、それじゃ今日はスキップしましょう。ぶつからないようにね」とピアノをひきはじめる。

男児にも女児にもふたりで手を組んでスキップをしている子どもたちが二組ずついる。

「今日はじょうずですね」しばらくスキップがつづく。

「こうやってかけた方もあるわよ。さあ、みんなできるかしら」と先生は子どもたちの中でおもしろいやり方をした人たちのまねをしてみせる。しばらくつづく。それからひとやすみする。

「さあ、お山に行きましょう。草がずいぶんのびてきましたよ。にょきにょきって立っている草もあるわよ。

下の方をはっている草もあるわね。

かわいいてんとう虫が飛んできましたよ。

赤い洋服に黒いぼたんがついていますね。

黒い洋服に赤いぼたんのてんとう虫もいますよ。

Oちゃんみたいにちょっちょっと飛んではとまるてんとう虫もいますよ。いもむしがきましたよ。

ふたり、三人とつながって長くなったいもむしもいれば、ふたりのいもむしも、ひとりのいもむしもいますよ。

おへやにも毛虫や、てんとう虫やいろいろなものがいますね。

さあ、いもむしがちょうちょになりましたよ。

男のちょうちょさん、そこに腰をおろして下さい。

これから女のちょうちょさんがダンスをして下さいますよ。

男のちょうちょさん、あげはかもしれないし、しじみかもしれないし、よくみてあげて下さいね」

先生のピアノに合わせて女児が自由に表現する。

次に男児がおどる。

「今度はⓈちゃんが持ってきて下さったざりがにになりましょう。
大きなはさみがあったわね。時々うしろに走るのね。
ざりがにさんのいる海にいってみましょうね。
海の近くにきましたよ。
ほらほら、赤いかにさんもできましたよ。
お友だちもでてきましたよ。
こういうのしょってさあ、何でしょうね？」
子どもたち「やどかり」
「そう、そう、やどかりもでてきましたよ。
さあ、貝を拾いにいきましょうね。
波にさらわれないように気をつけて下さいね。
大きい波がきましたよ。さらわれないようにね。
だいじょうぶだった？
あっ、貝をおとした人もいますよ。今度はおとさないようにね」
男女二組に分れて交代で波になったり、貝を拾う人になったりする。
「チャップ、チャップと小さい波ですよ。ほら、大きな波がきましたよ。また波はかえっていきますよ。
Sちゃんの波はほんとうの波みたいですね。
今度はきれいなお魚がでてきましたよ。
速く泳いでいるお魚もあるし、ゆっくりゆっくり泳いでいるのもいますね」
先生は子どもたちの動きをみながら子どもたちにはなしかける。

「パクパクロを動かしているのもあるわね。
夜がきましたから、お家に帰って大きい岩や小さな岩に帰りましょうね。海の中が静かになりましたよ」
ピアノに合わせてみんなしばらくやすむ。

「こんどは、こうしましょうね」と先生はちょっと考える。
「今度、もう一度お山にいきましょう」とピアノをひきはじめる。
「はっぱがたくさんついている木もあるし、くねくねっとした木もありますね」ピアノをひくのをやめて、子どもたちの方へ歩みより、子どもたちがいろいろと工夫しているのをみて歩く。
「こういうのもあったし、こういうのもあったわね。おもしろいですね」と身振りで再演する。そして話しつづける。
「自分の木がどんなかっこうかしらとおぼえておくのね。夜になって木の精がこびとさんみたいにこんなに小さくなって、かわいいのよ。木の精がおどりをおどるの。そして時計がボン、ポン、ボン、ポンと四つなって四時になったら自分の家に帰るのよ。ちゃんと家に帰れるかしら？」
先生はピアノの方に行きピアノをひきながら、はなしはじめる。
子どもたちは大さわぎでいろいろな形の木になる。
「ひとりで木になる人もいれば、三人、四人いっしょになって一本の木になっている人もいるし」と子どものようすをはなす。

ひとりが両手を床について、ひとりがその子どもの背中に片足をあげて、両手を勢よく上にのばしたりなど子どもたちはそれぞれ工夫をこらす。

ピアノの曲がかわる。

「木の精がおどりだしましたよ」

子どもたちはピアノに合わせて、スキップをしたり、輪になったり、時に大勢あつまったりなど、自由におどりだす。

「ポン、ポン、ポン、ポン」

ピアノの音をきいた子どもたちは「ワッー」と叫び声をあげて、大いそぎで、もとの木の位置に走って行く。いろいろと工夫をこらした木になる。

先生は一本一本木をみて歩く。

森の精をおわってひとりずつスキップで遊戯室を一周して保育室に帰る。

「森の精」は子どもたちがとても好きで、その後二学期、三学期にも時々みられた。三学期に行なわれた劇あそび「プレーメンの音楽隊」の時にも劇の一部にとり入れられた。

七月一日　水曜日

二、三日内に時計屋の店びらきをするので、まだ時計をつくっていない子どもたちに先生は積極的に働きかける。時計をつくらない子どもがいてもいいのではあるが、店びらきした時に自分のつくった時計がひとつもないとその時になって、つくらなかった子どもがきゅうにしょげてしまうこともありうるので、少なくともひとつは作るようにしたいと思っている。腕時計は別にして時計を五つつくった子どももいる。

九時

子どもたちが、あちこちで時計をつくっている。女児が三人ピアノをひいている。Ⓨ、Ⓘがままごとをしている。

先生がモールを束にしてだしてくる。モールをみたⓎは、

Ⓨ「Ⓨやめたわ、めがねをつくるの」

とままごとをやめて、めがねをつくりはじめる。

先生はまわりにいる子どもたちにはなしかけながらたくさんできた時計を、置時計、ふりこ時計、びん時計、腕時計などと分類して同じ種類の時計をあつめる。

先生「Ⓐちゃんの時計どれでしたかしら」

Ⓐ「これ」

先生「Ⓢちゃんの時計どれでしたかしら」

Ⓢ「まだ途中で、ひきだしなの」とひきだしにとりにいく。

先生「Ⓘちゃんのどれでしたかしら」

Ⓙはつくった時計をさがす。
先生「めがねもつくっておいてね」
Ⓨ「うでわも売っている？」
先生「うでわはこんどにしてちょうだい。またモールをあげるわよね。今日はめがねにしてちょうだい」
Aが Ⓨにめがねのつくり方をおしえている。
雨が降りだして、庭で、リレー、宇宙線とんだ、自動車おしなどをしていた子どもたちが入ってくる。先生は積み木をしている子どもたちに「そっちをやってからでいいから時計をつくってね」と声をかける。
先生「Iちゃんたちも考えておいてね」
I「ぼく、お花の時計にしようかな、何の時計にしようかな」
O「ぼくはめざまし時計と置時計にきめた」
I「ぼく、お花の時計にする」
先生「ああ、お花の時計もいいわね」
今まで時計をつくらなかったIも今日はつくりはじめる。Iは数字はまだかけない。
先生「Ⓝちゃんもひとりでつくった時計あるの」
Ⓝ「腕時計をつくったの」
先生「それじゃもうひとつつくりましょうよ」とさそう。

九時二十分

クラス中のほとんどの子どもが時計やめがねをつくっている。先生は子どもひとりひとりに製作上の注意をしている。
小さな箱に太マジックでかいて文字板をつくっている子どもに「これでかいた方がいいわ」と中太のマジックをわたす。
子どもたちがつくっためがねを手にとり、かけてみる。
めがねをつくっている子どもたちに「めがねをつくっている人たちね。セロテープをぺたってはるとみえないでしょう。だからセロテープ小さく切ってね」という。
E「先生、つくるところ満員」
先生「じゃ少しまってね。広くしましょう」と机を並べて広くする。

九時三十分

男児二人ままごとコーナーで遊んでいる。廊下ではめがねをつくりおえた子たちが遊んでいる。
E「カレンダーの時計つくろうかな。先生つくる」
先生「そうね、あそこがあいているわ。あすこにいらっしゃい」
E「堀合先生、針金少しちょうだい」
先生「どのくらいいるの？」ときいて、Eに針金をあたえる。
E「日にちがでるのをつくるの。ひもをひっぱると日にちがでるの」とEは先生にいうが、先生は他の子どもとはなしていてEに気づかない。Eは、針金を持って時計をつくっている子どもたち

のところをあちらこちらと立ちよって「ぼくカレンダーの時計をつくるんだ」といって歩く。
先生は次々と、ひとりひとりの子どもといっしょにつくったり声をかけたりする。
E「Ⓢちゃんと同じのつくろうかな」
と今度はモールを手に持ってふりこ時計をみている。
先生がEのところにくる。
先生「いっぱいふりこがあるでしょう。ふりこ時計にする？」
Eはあいかわらずふりこ時計をみている。

十時二十分

Eはモールでつくったふりこ時計が気に入ったらしい。モールで自動車をつくってふりこにした時計をみている。
先生「Eちゃん、お花でもいいし、ああいうのモールでつくっていらっしゃい」
Eはモールで何かつくりはじめる。

十時三十分

Ⓐはきのう、かさの時計をつくりたいといっていた。先生はⒶをみて、そのことを思いだす。
先生「Ⓐちゃんはかさの時計をつくりたいのだったわね」と黄色い紙をⒶにわたす。Ⓐは先生といっしょにかさの時計をつくる。

十時四十分

積み木をしている	男児五人	
絵をかいている	男児一人	女児五人
モールの机	男児二人	
先生のまわりにいる	男児一人	女児二人
飛行機	男児一人	女児二人

Eはモールでふりこをつくりおわり、ふりこをビュッーとまわしている。先生のところにくる。
E「ぼく、やっぱりカレンダー時計にする」
先生はEのふりこを手にとり、箱にあてる。
先生はどういうカレンダー時計にしようかと箱をうらがえしにしたりして考える。白い紙を持ってくる。
Eは先生の紙をみて、
E「先生、ぼく、いいこと考えた。これをまわすんだよ」
先生「紙を長く切って、そうして、1、2、3、とかいたら」
Eはあまりよく聞いていない。
先生は紙を幅五センチくらいに切って、はしを長く折って、それから順々に三センチぐらいの長さに折っていく。
Eは別の紙をくるくるまいている。
先生「日、月、火、水、木、金、土」といいながら折ってできたます目をかぞえる。
先生「日、月、火、水、木、金、土、ってぐるぐるまわすの。終っ

たらあべこべにまわすの」という。
先生は別の紙に漢字で大きく曜日をかいて、Eにわたす。Eはあまり気がない。
先生「かける？　日、月、火、水、木、金、土」
先ほど折った紙のます目に指をおいてもう一度曜日をいう。Eにわたす。Eは先生のをみながらかく。かきおわって先生にみせにいく。
先生「あーら、うまくかけたわね」
先生は箱に穴をあけて棒をとおす。穴の方が大きすぎたのでもっと太い棒を持ってきて、Eといっしょにあわせてみる、Eはにやにやしてみている。
先生は曜日をかいた紙を二本の棒にまきつけて、
先生「持っていてね」とEに一方の棒を固定させて、ぐるぐるまいてみる。Eは手をたたいてよろこぶ。
曜日がでるように箱に穴をあける。
先生「みえる？みててちょうだい」とまわす。
先生「きょうをだしてみましょうか」
「あっ、カレンダー時計」
「うわーEちゃん、いいのつくったのね」
「先生、ぼくもつくる」と子どもたちがわーわーいいながらみている。
先生は「あしたは木曜日です」といいながらまわす。

十一時十五分

片づけはじめる。片づけおわり、できた時計を並べる。みんな、自分のつくった時計を持ってくる。

十一時二十二分

みんな廊下に帽子をとりに行く。てぬぐいを持って帰る日で、先生はひとりずつ名前を呼んでてぬぐいをくばる。くばりおわり、みんなすわる。

先生は、時計屋の店びらきについて次のようなはなしをする。
先生「今、一生懸命つくった時計を並べてお店にしましょうね。時計をつくるのむずかしい時もあるわね。今度は大きいお店じゃなくて小さなお店にしましょうね。お家にも持って帰りたいでしょ。それでいちばん小さい組の方たちだけおよびすることにしたの。海の組（5才児）の先生と御相談をして海の組の方は池の組（3才児）の方たちを、山の組は森の組（3才児）の方たちをおよびすることにしたの。あした時計屋をしようと思ったけれど、きょう一生懸命あそんで時計をつくらなかった人もあるのね。まだあしたもつくりたい人もあるのね。つくりかけの人もあるのね。それであしたもう一日だけつくってあさって時計屋をしましょうね」

（つづく）